

肝斑治療を可能にした、レーザー治療新時代の幕開け！ これまで治療の困難であった肝斑のための新療法 ～「肝斑・レーザー トーニング」～

報道関係者各位

シーズ・メディカルグループ シロノクリニック(理事長 城野親徳、東京都渋谷区)では、この度、“レーザー トーニング”という、QスイッチYAGレーザー「MedLite C6(メドライトC6)」による肝斑の新しい治療法を開始致しました。これまで肝斑にレーザー治療は禁忌とされてきましたが、その肝斑への画期的な治療法として、“レーザー トーニング”は非常に注目の先端治療と言えるでしょう。(美容先進国「米国」「韓国」「台湾」でも大ブレイクしている治療法です。)肝斑のほかにも、**開いた毛穴やくすみにも効果的で、その治療効果は多くの方が体感し実証されています。**



● 期待できる効果

肝斑・**毛穴**・シミ・色素沈着・くすみ 等

● レーザー トーニングとは

QスイッチYAGレーザー「MedLite C6(メドライトC6)」(①Qスイッチ②波長1064③均一な光線)による肝斑の新しい治療法です。これまで肝斑にレーザー治療は禁忌とされてきましたが、その肝斑への画期的な治療法として、“レーザー トーニング”は非常に注目されています。(美容先進国「韓国」や「台湾」、「米国」でも大ブレイクしている治療法です。)肝斑のほかにも、開いた毛穴やくすみにも効果的で、治療後は肌がツルツルになると多くの方が実感しています。

《 効果実感までの回数 》 1週間に1回 計4・5回
《 照射時間 》 約10分

● 肝斑治療を可能にした理由

大きなスポットサイズによる、繰り返し照射ができるスポットを使用したQスイッチヤグレーザーを光熱溶解より低めのエネルギーで照射します。これにより、肝斑の原因である、メラニン類顆粒は破壊され、細胞質内に分散されます。なお、総蓄積照射量は、細胞を破壊する総有毒蓄積エネルギーよりも低い必要があります。これによって、色素の軽減が生じるからです。そして、引き続き1週間間隔の治療を行う事により徐々に色素沈着が減少します。この反応は、細胞へのダメージや細胞死を伴わない細胞内レベルでのQスイッチヤグレーザーによる生物刺激効果として分類することができるのです。

パチパチと輪ゴムではじく程度の痛みです。



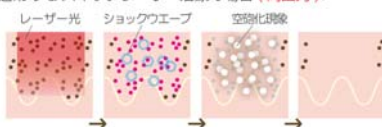
低出力で均一なレーザー光

照射風景

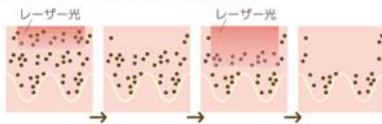
■ メカニズム

空砲化現象を起こさせない弱い出力

<通常のQスイッチレーザー治療の場合(高出力)>



<レーザー トーニングの場合(低出力)>



Qスイッチヤグレーザーは低出力で均一なレーザー光によって、肝斑治療が可能になりました。

均一照射のトップハット型ビーム光

皮膚断面の照射イメージ

